

日語形容詞之感嘆詞化探究

—以形容詞基本形為主—

賴錦雀

東吳大學日本語文學系教授

摘要

本論文之目的在於考察日語形容詞基本形感嘆詞化之轉品現象。語詞改變其原本的語意、文法功能、詞性的語言現象，稱之為「轉品」。本論文以原本具有修飾名詞或成為述語的日語形容詞基本形為對象，考察其轉化為感嘆詞的轉品現象。參考感嘆詞可以成為單詞句、對於感嘆等感情不加以分析而直接表達等特性，針對日語「形容詞基本形＋！」形式與「感動詞＋形容詞＋！」形式加以考察的結果，確認了形容詞基本形感嘆詞化的語言事實，同時了解到具有感嘆詞化功能的日語形容詞以表全身感覺、痛感、癢感、觸覺、嗅覺、味覺、聽覺、視覺、時間、距離、存在、評價、心理等語意者居多。

關鍵詞：日語形容詞、基本形、轉品、感嘆詞、直接表達

受理日期：2018.08.31

通過日期：2018.11.09

A case study of Japanese adjective basic form: Transforming adjectives into interjections

Lai, Jiin-Chiueh

Professor, Soochow University, Taiwan

Abstract

The purpose of this paper is to clarify the interjection of the Japanese adjective basic form which is one of the transformations. Words change their original semantics, grammatical functions, and become a character as another part of speech, which are called "transformation". Japanese adjectives originally have the function of modifying nouns or becoming a predicate. This paper takes the basic form of Japanese adjectives as the object and examines the phenomenon of its transformation into interjections. An interjection can be a word sentence, and it can be directly expressed without analyzing emotions such as sighs. This paper refers to the characteristics of the interjection, Investigate the Japanese "adjective basic form +!" form and the " interjection + adjective +!" form. The result confirms the linguistic fact of the "transformation" of the basic form of the Japanese adjective into interjection. At the same time, it was confirmed that Japanese adjectives with transformation functions are mostly expressed in terms of general feeling, pain, itching, touch, smell, taste, sensation, vision, time, distance, existence, evaluation, and psychology.

Key words: Japanese adjective, basic form, transformation, interjection, directly express.

日本語における形容詞からの転成感動詞の考察 —形容詞基本形を中心に—

頼錦雀

東呉大学日本語文学科教授

要旨

本論文の目的は転成の一つである、日本語形容詞基本形の感動詞化を明らかにすることである。ある語が本来の意味、文法的機能を変えて、他の品詞としての性質を持つようになる「転成」という言語現象がある。本論文ではもともと名詞を修飾したり、述語として用いられたりする機能をもつ日本語形容詞基本形を対象に、その感動詞への転成について考察した。一語文となることができ、感嘆などの感情が分析を加えられず、直接的に表出される、という感動詞の特徴を参照にしながら「形容詞基本形＋！」形式と「感動詞＋形容詞＋！」形式を考察した結果、形容詞基本形の感動詞化が確認された。そして、意味類型から見れば、全身感覚、痛痒、触覚、嗅覚、味覚、聴覚、視覚、時間、距離、存在、評価、心理などの意を表す形容詞が感動詞に転成することが多い、という事実が明らかになった。

キーワード：日本語形容詞、基本形、転成、感動詞、直接表出

日本語における形容詞からの転成感動詞の考察 —形容詞基本形を中心に—

頼錦雀

東呉大学日本語文学科教授

1. はじめに

ある語が本来の意味、文法的機能をかえて、他の品詞としての性質を持つようになることは転成という¹。日本語にはいろいろな転成がある。例を見てみよう。

イ. 指示詞からの転成

次の例で見る「これ」「それっ」「あれ」「あれあれ」は指示詞から感動詞に転成したものである。

- (1) 「これ、佐平次。汝は、この館におる女と、ねんごろじゃとな」（池波正太郎『真田太平記』BCCWJ）
- (2) 「引き上げるぞ。それっ！」 「一、二の…」 「三！！」（吉岡平『アプサラスリターンズ』BCCWJ）
- (3) 「あれ? …これ、何だろ？」（島津出水『コスプレ探偵かおり』BCCWJ）
- (4) 誰も何も言わなかった。前に踏み出る者もない。「あれあれ、どうしたんです。」（黒武洋『そして粛清の扉を』BCCWJ）

動詞の転成類型はいろいろある。未然形、否定形、て形、連体形、基本形の重複形で副詞に転成することもあり、基本形の重複形で副詞に転成することもある。また、連用形で名詞に転成することも多くある。

ロ. 動詞からの転成

- (い) 未然形→副詞 例: 言わば

¹ 『日本文法大辞典』による。

- (ろ) 否定形→副詞 例:思わず
- (は) て形→副詞 例:改めて
- (に) 連体形→副詞 例:思うに
- (ほ) 基本形の重複形→副詞 例:恐る恐る
- (へ) 語基の重複形→オノマトペ 例:ゆれゆれ (揺れ揺れ)
- (と) 連用形→名詞 例:光り

形容詞からの転成でよく取り上げられるのは次のようなものである。

- (い) 語幹+接辞→名詞 例:面白さ、重み
- (ろ) 語幹+接辞→動詞 例:早まる、高める、悲しがる
- (は) 語幹重複形→副詞 例:赤々、長々
- (に) 語基重複形→副詞 例:細々(こまごま)

しかし、実際に「形容詞語幹+っ」形式で感動詞(例5-6)に転成する用例もあり²、形容詞基本形で副詞(例7)に転成したり感動詞(例8)に転成したりする用例もある(下線は引用者。以下同)。

- (5) 簡便に流れるのが「生きた言語」ならば、主役は話し言葉で、書く方はそっと後を追う。この現実、まともに見れないほど怖っ。(朝日新聞 2011年9月17日「天声人語」)
- (6) 「あ痛っ、あ痛っ。誰だい。」なんて云いながら目をさまして、しばらくきよろきよろきよろきよろしていました(後略)(宮沢賢治『銀河鉄路の夜』100)
- (7) 強い人間が一人で集団を持っているときというのはすごい強いと思うんですね。(野田秀樹『定本 野田秀樹と夢の遊眠社』BCCWJ)
- (8) 「院長先生!!」すごい!メグったら目をウルウルさせて今にも泣きださんばかりの表情をしている。(ゆうきみすずきらめく『星空に哀愁のチャルメラが聞こえる』BCCWJ)

² 「形容詞語幹+っ」形式による感動詞転成について、詳しくは頼(2015)を参照されたい。

例(8)における「すごい」は評価のカテゴリから直接感情表現に変わったのでその感動詞化を認めるべきだと思われる。

一体、どのような形容詞基本形が感動詞に転成するのか、それを明らかにするのが本稿の狙いである。研究手順としてはまず、日本語の感動詞を概観し、形容詞の感嘆表現に関する先行研究について見た後、形容詞基本形による感動詞化の現象を考察・分析する。

2. 日本語の感動詞

山田(1936)では「うるはしき花かな」というような日本語の感動喚体句を直感的一元性の感情発表形式としている。場面によって、「うるはしい花！」の意で表されている。この「うるはしい花！」は「花がきれいであること」と同じく、思いがけず花の美しさを感じた場面における、意外性が含まれる感嘆表現である。一つの名詞による「花！」も典型的な日本語の感嘆表現である。しかし、それとは別に、日本語には感動詞という品詞がある。その感動詞の定義について、小池・他(2007)は品詞の一つで、自立語で活用がなく、文の独立語となることができ、概念内容をもたず、感嘆などの感情が分析を加えられず、直接的に表出されたもの、のように定義している。但し、鈴木(1973)も指摘しているように、感動詞の認定は定まっていない。例えば、「おいおい泣く」「しくしく泣く」「めそめそ泣く」における下線部は同じ性格のものと思われるのに、『新明解国語辞典』(2017。七版)においては、「おいおい」だけが「感動詞」で、「しくしく」「めそめそ」は「副詞」となっている。

2.1 日本語感動詞の基本類型

感動詞の分類は、説によっていろいろあるが³、鈴木(1973)では感情の表現(「あっ、おやっ、おっと」、挨拶語など)と意志の表現(「おい、こら」などの呼びかけ、「はい、いいえ、ええ」などの応答)の二種に分けられている。小池・他(2007)では次のように分類

³ 感動詞の分類について詳しくは鈴木(1973)を参照されたい。

されている。

A. 感嘆などの感情を表出するもの

ああ、あら、おや など

B. 呼びかけ

おい、こら、ねえ、もしもし など

C. 応答

はい、いいえ、うん、ええ など

D. 発話の意志を表すもの。つなぎの言葉。

あー、あの、えー、えーっと など

まとめてみると、次のようになる。

イ. 感動を表す（喜び・悲しみ・驚き・嘆きなど、いろいろな感情を表す。）

(9) 「あら、昨夜はアパートにいたのに、何もしなかったじゃない」（赤川次郎『探偵物語』BCCWJ）

ロ. 意志を表す呼びかけ（人を呼んだり、人の注意を呼び起こす。）

(10) 「おい、久しぶり。茶でも飲まんか」（竹内誠『日本警察と裏金』BCCWJ）

ハ. 応答を表す（返事や相手のことばへの反応を表す。）

(11) 「これが出島というやつかね」「はい、そうですよ」（風野真知雄『ニコライ盗撮』BCCWJ）

ニ. 挨拶を表す

(12) 「おはようございます。社長早いですね」（安宅温『走れ介護タクシー』BCCWJ）

ホ. 意志を表す掛け声（かけ声や氣勢を表す。）

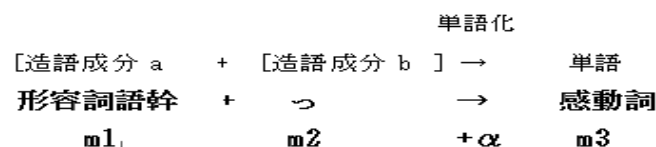
(13) 劉邦の眼をさまさないように、低くおさえた声で、「そら、出た！」（眞鍋呉夫『覇権争奪』BCCWJ）

2.2 形容詞による感嘆表現

上述した、いわゆる感動詞のほかに、形容詞にも次のような感嘆表現がある。

- (13) 人は、趣味を仕事にできるとはなんとすばらしいことだ
ろう、と思う。（沢木耕太郎『バーボン・ストリート』
BCCWJ）
- (14) これが日本の文化なんだ。東洋の礼儀作法なんだ。なん
とすばらしい習慣なんだろう。（伊熊よし子『ヴェンゲ
ーロフの奇跡』BCCWJ）
- (5) 簡便に流れるのが「生きた言語」ならば、主役は話し言
葉で、書く方はそつと後を追う。この現実、まともに見
れないほど怖っ。（朝日新聞 2011 年 9 月 17 日「天声人
語」）
- (6) 「あ痛っ、あ痛っ。誰だい。」なんて云いながら目をさま
して、しばらくきょろきょろきょろきょろしていました
（後略）（宮沢賢治『銀河鉄路の夜』100）

例 (13) (14) は「なんと（形容詞＋名詞）だろう」形式で表現主
の感嘆の気持ちを表している。疑問詞と感嘆表現のつながりが窺わ
れている。一方、再掲の例 (5) (6) の「形容詞語幹＋っ」形式は頼
(2015) では感動詞化したものだと主張されている。「形容詞語幹＋
っ」形式の感動詞転成のプロセスにおいて、表現主体の感情の強調、
瞬時性、スピード感、表出性などの意味添加及び語頭が低く、語尾
が高い上昇型イントネーションの付加が行われる。つまり、感動詞
「形容詞語幹＋っ」形式の意味はただ造語成分 a（形容詞語幹）の意
味 m1 と造語成分 b（っ）の意味 m2 を合わせた物というだけではなく、
単語化のプロセスに付加された意味もあるので、「m3」は「m
1+m2+α」の総合体である⁴。



(図 2) 「形容詞語幹＋っ」形式の感動詞形成

⁴ 頼 (2015) による。

但し、形容詞の感動詞化は「形容詞語幹＋っ」形式の他に、形容詞基本形によるものも見られる。以下、それについて考える。

2.3 形容詞基本形の感嘆表現

鈴木（1973）はもっぱら言語的に未分化の声的感動詞（ああ、おい、ええなど）について論じたが、森田（1973）は「それ」「よし」「しまった」「でかした」など他の品詞からの感動詞についても触れている。しかし、形容詞基本形からの転成感動詞の例は挙げられなかった。一方、飛田・浅田（1991）は例（15）（16）における「すごい」「ずるーい」のような用法を「感動詞的」用法と述べている。

（15）すごいなあ、どうやって彼女くどいたんだい。（現形）

（16）「ぼく今度の月曜日休むよ」「ずるーい」（現形）

小池・他（2007）の「感嘆などの感情が分析を加えられず、直接的に表出されたもの」という感動詞の定義の内容から考えてみれば、例（15）（16）における「すごい」「ずるーい」は「感動詞的」用法というよりも、感動詞そのものだと主張したいものである。

では、どのような形容詞が感動詞に転成するのか、考察してみよう。

3. 考察と分析

本研究では日本国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を中心に考察する。考察手順は次のようになる。

（一）文末が「形容詞基本形＋！」形式である文を抽出する。

（二）一語文である「形容詞基本形＋！」形式と「感動詞＋形容詞基本形＋！」形式を抽出する。

（三）感嘆表現「形容詞基本形＋！」形式における形容詞の意味類型を分析する。

勿論、例（16）のように、「形容詞基本形。」形式で挫折感、敗北感などを表す感嘆表現として用いられることも見られる。しかし、一方、例（17）のように、「形容詞基本形。」形式で感嘆表現ではなく、「不必要」という意味を表す用法もある。本稿では「形容詞＋！」

の一語文における「形容詞」を感動詞と見なしたいので、「！」が付く形容詞一語文を抽出することにする。

(16) 真赤になって島村を睨みつけながら詰問するうちに、駒子の肩は激しい怒りに顫えて来て、すうっと青ざめると、涙をぼろぼろ落した。「くやしい、ああっ、くやしい。」と、ごろごろ転がり出て、うしろ向きに坐った。(川端康成『雪国』100)

(17) 「あなた、羽織の襟が折れていませんよ。こんな日には、髪結いでも呼んで、さっぱりとなすったら。」「まあいい。」(島崎藤村『夜明け前』第一部下 A0)

なお、感動詞の重複形(例(18)(19))も感動詞の共起(例(20))も感動詞の表現様式なので、「感動詞+形容詞基本形+！」における形容詞も考察対象にした。

(18) まあまあ、とおっしゃって、それ切りになりましたのでございます。(泉鏡花『縁結び』jp)

(19) 西田は、細君の目の前に手を振りながら、「おいおい、もうそのへんでよろしい」と、苦笑した。(源氏鶏太『停年退職』z 100)

(20) 「—そんなに欲しかったら、どこからか孫をもらって来なさい。わしはまだ欲しくないぞ」「おや、まあ。孫というのは、兵太郎に嫁をとって、その間に生れた子供が私たちの孫になるのではありませんか」(石坂洋次郎『石中先生行状記』z 100)

3.1 考察結果

本研究で考察した結果、日本国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』から文末が「形容詞+！」形式になっている文を5,699文抽出した。そのうち、一語文である「形容詞基本形+！」形式と「感動詞+形容詞基本形+！」形式を形成する形容詞は下表で見る119語(異なり語)である。

(表1)『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における
一語文の感嘆表現「～+！」形式をつくる形容詞

形容詞	回数	形容詞	回数	形容詞	回数	形容詞	回数
すごい	119	ありがたい	9	しつこい	4	きつい	
うまい	60	さむい	9	わるい	4	くすぐったい	1
いたい	57	たかい	9	おかしい	3	くわしい	1
うるさい	53	Aくない	8	かっこわるい	3	こい	1
おいしい	51	おいしい	8	かなしい	3	こいしい	1
あぶない	43	きもちいい	8	からい	3	こうばしい	1
うれしい	42	くやしい	8	かるい	3	しぶい	1
すばらしい	42	ずるい	8	もうしわけない	3	しぶどい	1
あつい	38	たのしい	8	あたまいい	2	しらじらしい	1
かわいい	34	つめたい	8	いまいましい	2	ずうずうしい	1
とんでもない	29	もったいない	8	いやらしい	2	すくない	1
かっこいい	25	きたない	7	えろい	2	すっぱい	1
一たい	25	めんどくさい	7	くさい	2	せまい	1
やばい	23	わかい	7	けがらわしい	2	ちいさい	1
ひどい	20	おもい	6	すずしい	2	ちかい	1
えらい	18	きもちわるい	6	でかい	2	なまあたたかい	1
なつかしい	17	つよい	6	ばからしい	2	なまなましい	1
まずい	17	ねむい	6	ふとい	2	なやましい	1
うらやましい	16	ばかばかしい	6	まちどおしい	2	にくい	1
おもしろい	16	はやい	6	まぶしい	2	にくらしい	1
ほしい	16	やがましい	6	むずかしい	2	ぬるい	1
あまい	15	よい	6	めずらしい	2	ねむたい	1
こわい	13	よろしい	6	めでたい	2	はがゆい	1
ない	13	うつくしい	5	一やすい	2	ふるい	1
一にくい	13	くどい	5	あったかい	1	まるい	1
いい	12	おおきい	4	あほらしい	1	めんどい	1
やすい	12	おそろしい	4	いとしい	1	わざとらしい	1
はずかしい	11	きもい	4	うざい	1	一がたい	1
おそい	10	くるしい	4	うっとうしい	1	一づらい	1
一たくない	10	さびしい	4	かたい	1		

使用頻度から見ると、感嘆表現「形容詞+！」形式を一番多くつくるのは「すごい」である。そして、使用頻度10と10以上の形容詞は「すごい(119)、うまい(60)、いたい(57)、うるさい(53)、おいしい(51)、あぶない(43)、うれしい(42)、すばらしい(42)、あつい(38)、かわいい(34)、とんでもない(29)、かっこいい(25)、

ーたい (25)、やばい (23)、ひどい (20)、えらい (18)、うらやましい (17)、なつかしい (17)、まずい (17)、おもしろい (16)、ほ
しい (16)、あまい (15)、こわい (13)、ない (13)、ーにくい (13)、
いい (12)、やすい (12)、はずかしい (11)、おそい (10)、ーたく
ない (10)」である (括弧の数字は使用頻度)。用例を見てみよう。

(21) 「今度、オーディションがあるんですって。ぜひ受けてほ
しいって」「凄い!」(赤川次郎『愛情物語』BCCWJ)

(22) その肉は、柔くてしかも張りがあり、淡白でありながらと
ても奥深い味をしていた。「うまい!」とわたしは思わず嘆
声をもたらしたのだが、(後略)(開高健『小説家のメニュー』
BCCWJ)

(23) 真幸はむっつりだまりこんでしまった。「わかった? きい
てるの、真幸」「うるさい!」いままでの心安さも快活さも
すべてふっとんでしまった。(辻原登『翔べ麒麟』BCCWJ)

(24) みさきは早速蕎麦を口に運んだ。ぱっとその顔が輝く。「お
いしい!」(野崎透『ダイバージェンス・イヴ』BCCWJ)

(25) ヘビが木をつたうように、シャクティの指先がクイーンの
顔面をおそった。「あぶない!」ジョーカーの蹴りが、シャ
クティのうでをはじきとばした。(はやみねかおる『怪盗ク
イーンと魔窟王の対決』BCCWJ)

(26) 演奏が始まると、子供を2人連れた母親が「うれしい!」
と叫んで一緒に歌いだし、子供も「よかったね」と笑顔で
歌の輪に加わった。(上田耕司『週刊アサヒ芸能』第56巻
19号、通巻2809号。BCCWJ)

(27) 「素晴らしい! さすがは世界最高の神の力、ガーゴイル!
そして怪盗百色の娘!」(田口仙年堂『吉永さん家のガーゴ
イル』BCCWJ)

(28) 気温上昇↑ 暑い! 梅雨の中だるみの紫外線は強いそうで
す。(Yahoo!2008。BCCWJ)

(29) 全身が炎に包まれてしまった。「熱い! 熱い! 助けてくれ

- 一」必死に叫び、もがいた。(古市佳央『君の力になりたい』BCCWJ)
- (30) かわいい！このふたりはかわいいなあ。(Yahoo!2008。BCCWJ)
- (31) いわゆる、ぬいぐるみタイプだ。「可愛い！抱いてみてもいい？」(片山 奈保子 COBALT(コバルト)第23巻第1号、通巻116号。BCCWJ)
- (32) 「まさかそのとき、君、伯父さんを殴ったりはせんかったろうね？」「とんでもない！してません」(宮部みゆき『蒲生邸事件』BCCWJ)
- (33) いずれにしろ、「面白い！」あるいは「いいな！」「かっこいい！」など、感動の火種に点火することが何より大切ですよね。(Yahoo!2008。BCCWJ)
- (34) その夜、頼子は急に目が覚めました。“走りたい！とつ然、そう思ったのです。(河田宣世『あこがれはマンガ家』。BCCWJ)
- (35) 威嚇するように羽を震わせ、巨大な顎を動かす。「やばい！」鷹彦は叫んだ。(吉岡平鉄甲『巨兵 some-line』BCCWJ)
- (36) 「ひどい！怖い！」「こんなところイヤ！」私より先に妻が叫びました。号泣。(土師守『淳』BCCWJ)
- (37) 「わかる、そういう女の気持ち？」「捨てられたとは思いたくない」「えらい！」ルアンが大きく首を縦に振っていう。(笹倉明『ルアン』BCCWJ)
- (38) そして二宮さん自身、スキマスイッチのファンだそうで。インディーズの頃のCDとか持っているようです。羨ましい！(Yahoo!2005。BCCWJ)
- (39) 額縁の中の彼は、おだやかなほお笑みをたたえている。「ああ、この笑顔。なつかしい！」と、皆さん、これもおきまりのように、いつも言ってください。(清川妙『花明かりのことば』BCCWJ)
- (40) 気付ば外は全然知らない景色だった。まずい！乗り越しちゃった！！(Yahoo!2008。BCCWJ)

- (41) こんな電話って日常茶飯事！？おもしろい！私ならつい、しゃべってしまいそう…。(Yahoo!2005。BCCWJ)
- (42) ちなみにカウルの上のサインは、ロッシ直筆のもの。欲しい！（矢野光二『別冊 MOTOR CYCLIST』Vo1.293、第25巻第5号。BCCWJ)
- (43) 漬物石をどかし、ちょっとなめてみてビックリ。甘い！（鳩山エミリ『食べるのが大好き』BCCWJ)
- (44) ドリルの唸り声。いやーッ！！こわい！先生に命をあずけてるような気持ちで、ひたすら恐怖に耐えるだけ。(青山えりか『好きから始まる kiss 物語』BCCWJ)
- (45) その時、ふいに、お針子の間から悲鳴があがった。「ない！針が一本なくなってるわ！」(山浦弘靖『恋姫たちは眠れない』BCCWJ)
- (46) 赤ちゃん時期は、男女差より個人差のほうが大きいというのが正解のようです。育てにくい！力が強いので大変です。(大美賀直子『Baby-mo』第3巻第4号、通巻18号。BCCWJ)
- (47) あの最後の夕日チックに染まる芹沢のアップはほんとやっぱりすごい…いい！って叫んでしまいます。(Yahoo!2008。BCCWJ)
- (48) これで行くことをおすすめ。自由席で往復二万三千六百八十円のところ、二万四千四百円。安い！（Yahoo!2005。BCCWJ)
- (49) 「御主人さまに…していただいた方が何倍も感じます。ああっ、恥ずかしい！こんなことまで打ち明けるなんて…」(深山幽谷『令嬢・涼子』BCCWJ)
- (50) 「出発進行っ！」「遅い！三十秒遅れとるぞ！」(Yahoo!2008。BCCWJ)
- (51) キモイ男。絶対嫌。結婚したくない！もう婚約破棄して下さい！！！！(Yahoo!2005。BCCWJ)

3.2 分析

上述し一語文の感嘆表現「形容詞基本形＋！」形式を分析してみ

ると、次のようなことが明らかになった。

3.2.1 形態的に

形態的に見た場合、一語文の感嘆表現「形容詞基本形＋！」形式には表情音が入ること、接頭辞「超」が付くこと、重複形で用いられること、感動詞と共起することなどの現象が観察された。そして、感情を直接的に表出するので、話し言葉で用いられることが多い。

(一) 一語文の感嘆表現「形容詞基本形＋！」形式における形容詞に長音、促音、撥音、拗音などの表情音が入ることが少ない。本研究の考察では次のような例が観察された。

(A) 長音

頭いーい、甘あ〜い、あま〜い、痛ーい、うまあい、
うまーい、美味〜い、えらーい、遅ーい、おも〜い
おもしろーい、こわーい、さむ〜い、すごーい、
ひど〜い、見たあーい、めんどくさーい、わかーい、
悪くなーい、

(B) 促音

あっつ〜い、かつわいーい、すっごい、ひっどーい、

(C) 撥音

すんばらしい、

(D) 拗音

すっごおい、もったいなあい、

(二) 一語文の感嘆表現「形容詞基本形＋！」形式における形容詞に接頭辞「超」が付くものがある。

(52) 学生時代からというよりも小さい頃からの同級生、幼なじみと一緒に撮った。超なつかしい！(Yahoo!2008。BCCWJ)

(53) 今大会を最後に引退を示唆している競泳の北島康介選手が名ゼリフ「超気持ちいい」！(Yahoo!2008。BCCWJ)

(三) 一語文の感嘆表現「形容詞基本形＋！」は重複形で用いられることが見られる。

(54) 子どもも大人も、「あつい、あつい！」と顔をしかめなが

ら火渡りの行に挑み、無病息災を祈っていました。(『広報
うえだ』2008年05号。BCCWJ)

(55) 「いたい、いたい、いたい！神さま、おいらに鉄の体をく
ださい。(後略)」(等門じん『さめくん大へんしん！？』
BCCWJ)

(56) (前略) まさに食の芸術品 しかしさすがに自分も行ける
かなと思いきや…うまいうまい！結局あつという間に完
食！！！！(Yahoo!2008。BCCWJ)

(57) どんぐらいあるんですか？(持ってみる)(中略)おも～い！
重い！これ(Yahoo! 2008。BCCWJ)

(58) そして、何問かいっしょに解いて、すらすらとリズムにの
って鉛筆が動きだしたら、「すごい、すごい。(後略)
(関本憲一著『がんばる力とたしかな学力』BCCWJ)

(四) 一語文の感嘆表現「形容詞基本形＋！」形式は他の感動詞と
共起することが少なくない。

(59) 「うわ、暑い！」新幹線のドアから京都駅のホームへと一
歩出た途端に、操が悲鳴のような声をあげる。(宮原昭夫『陽
炎の巫女たち』BCCWJ)

(60) その一人が、「あっ、いたい！」とさけんで、目をさまし
ました。(千葉幹夫『お化けをよぶ百物語』BCCWJ)

(61) 「ぎゃっ、いたい！はなして。」(金治直美『逢魔が刻のに
おい』BCCWJ)

(62) 沢山あるなら、乾燥させておくと冬でもハーブティが楽し
めます。サシェにもできるし、あ～うらやましい！(Yahoo!
2008。BCCWJ)

(63) 元々、キヤーかっこいい！とは思ったことがなかったの
で本気でときめいたのは始めてかも？(Yahoo!2008。BCCWJ)

(64) 「わあー、かわいい！」さえちゃんが、しゃがんで、そっ
とかた手をさし出しました。こねこは(後略)(間所ひさこ
『シマダクンをよろしく』BCCWJ)

(65) 彼女が会場に姿を現すと、「あやや、かわいい！」「こっち向いてよ、あやや！」男の子だけでなく、女の子からも黄色い声援が飛んだ。(吹上流一郎『松浦亜弥素顔のメモリアル』BCCWJ)

(66) 「わあ～、すごおい！こんな厚いお財布初めて見たあ。
(錦岡龍司『1Kのセレブ』BCCWJ)

(五) 一語文の感嘆表現「形容詞基本形＋！」形式は話し言葉で用いられることが多い。

(67) 「気持ち悪い！やめてください」浜口が悲鳴をあげた。(山村美紗『京都茶道家元殺人事件』BCCWJ)

(68) 私(二十九歳)は優しいと思うんですが、四十歳前の男の人は、「かっこ悪い！」といます。かなり口論になりました。(Yahoo! 2005。BCCWJ)

(69) 「特別にタダで提供できるかもしれない」「すごーい！」としのぶが拍手をした。(盛田隆二『おいしい水』BCCWJ)

3.2.2 意味的に

本研究で採集した、一語文である「形容詞基本形＋！」形式と「感動詞＋形容詞基本形＋！」形式を形成する118語の形容詞は『分類語彙表-増補改訂版』を参照しながら分析すれば、心理を表す形容詞は39語、評価を表す形容詞は37語、感覚を表す形容詞は36語ある。細かく見た場合、全身感覚、痛痒、触覚、嗅覚、味覚、聴覚、視覚、時間、距離、存在、評価、心理などの意を表す形容詞が観察された。全身感覚では睡眠に関わる「眠い、眠たい」、痛痒感覚では痛感の「痛い」と痒感の「くすぐったい」があった。五感では触覚(「熱い」など)、嗅覚(「臭い」「香ばしい」)、味覚(「甘い」など)、聴覚(「うるさい」など)、視覚(「高い」「美しい」など)に語例が見られる。時間関係においては新旧(「古い」「若い」)、速度(「早い」「遅い」)を表す語例が採集された。距離を表す「近い」、存在を表す「ない」もあった。評価を表す形容詞はまた、難易、安危、趣、調子、禍福、詳細、進行、特徴、風俗、品行、信念、良不良、材質、努力、行儀、

弛緩、多少、文化、才能、力、否定、好悪、愛憎、快、喜び、苦悩、恐れ、恥、悔しさ、欲望、理由、経済、悲哀、期待、焦燥、意志、感謝、謝罪などに下位分類される（表2を参照されたい）。

（表2）感嘆表現「形容詞基本形＋！」の意味類型

意味類型	形容詞	
感覚	全身感覚	ねむい、ねむたい
	痛感	いたい
	痒感	くすぐったい
	触覚	あつい、つめたい、あったかい、なまあたたかい、ぬるい、すずしい、さむい、おもい、かるい、つよい、こわい、かたい
	嗅覚	くさい、こうばしい、なまなましい
	聴覚	うるさい、やかましい
	味覚	あまい、うまい、からい、すっぱい、くどい、おいしい
時間	視覚	おおきい、でかい、ちいさい、ふとい、まるい、せまい、たかい、うつくしい、まぶしい
	新旧	ふるい、わかい
距離	速度	はやい、おそい
	存在	ちかい
評価	存在	ない
	難易	むずかしい、-にくい、-がたい、-づらい、やすい、-やづい
	安危	あぶない、やばい
	調子	とんでみない、すばらしい
	禍福	めでたい
	詳細	くわしい
	進行	ばかばかしい
	特徴	おかしい、めずらしい
	風俗	えろい、ばからしい
	品行	ずるい
	信念	しつこい
	良不良	いい、かっこいい、よい、よろしい、かっこわるい、わるい
	材質	きたない、こい
	努力	しぶどい
	行儀	えらい
	弛緩	きつい
	多少	すくない
	文化	しぶい
	才能	あたまいい、うまい
	力	すごい、ひどい
否定	（形容詞語幹）くない	
心理	趣	うらやましい
	好悪 愛憎	いやらしい、にくい、にくらしい、いとしい、こいしい、かわいい、なつかしい、あほらしい、ばからしい
	快・喜び	うれしい、きもちいい、たのしい、おもしろい、きもちわるい、きもい
	苦悩	うざい、うっとうしい、くるしい、なやましい、めんどろくさい、めんどい
	恐れ	いまいましい、おそろしい
	恥	ずうずうしい、はずかしい
	悔しさ	おしい、くやしい
	欲望	ほしい、-たい、-たくない
	理由	しらじらしい
	経済	もったない
	悲哀	かなしい、さびしい
	期待	まちどおしい
	焦燥	はがゆい
	意志	わざとらしい
	感謝	ありがたい
謝罪	もうしわけない	

全体的に言えば、表現主の感覚、評価、心理が直接表出されることを表す形容詞が「形容詞基本形＋！」形式で感嘆表現として用いられることが多い。考えてみれば、形容詞はもともと人間が外界を認知し、そして認知した結果を表現するのに使われる言葉なので、主観的なニュアンスが強い語である。このような主観的なニュアンスが強い語による感嘆表現が多いのも無理からぬことだと思われる。

4. 「形容詞基本形＋！」を転成感動詞と見なす理由

一般的に言えば、日本の国語辞書では一語文である「形容詞基本形＋！」形式と「感動詞＋形容詞基本形＋！」形式における形容詞については、感動詞に関する記述は見当らない。『現代形容詞用法辞典』ではそれにあたる形容詞のことを感動詞的に用いられる、というように述べられている。本稿では一語文の「形容詞基本形＋！」形式と「感動詞＋形容詞基本形＋！」形式における形容詞を転成感動詞だと主張したいものである。

まず、感嘆表現としての形容詞とそうでない形容詞の相違はどこにあるのか、用例を参照しながら考えてみたい。感嘆表現としての形容詞は表現主の感情を直接的に表現するのに対して、そうでない場合は叙述か評価の意を表すことになる。例えば、例(70)では、「腕が男らしい」ことに対して「かっこいい」と評価している。例(71)では、うさぎさんの顔のことを「小さい」と言っている。例(72)における「おいしい」は「すいか」に対する評価である。一方、例(73)の「かっこいい！」のような一語文の「形容詞基本形＋！」形式と例(74)の「うわ、暑い！」のような「感動詞＋形容詞基本形＋！」形式における形容詞基本形は、文の独立語となることができ、感嘆などの感情が分析を加えられず、直接的に表出されたもの、という小池・他(2007)の感動詞に対する定義に当たるものと思われる。そして、例(75)～(79)で見ると、感動詞に感嘆符「！」がよく付くが、それは感動詞に転成した形容詞基本形にも付いている。よって、一語文である「形容詞基本形＋！」形式

と「感動詞＋形容詞基本形＋！」形式における形容詞の感動詞への転成が成立する、と判断される。

(70) 袖なしの青いTシャツから出ている腕がみんな男らしくて
かっこいい！（Yahoo!2008。BCCWJ）

(71) あのときは、みんな驚いてましたよ。「うさぎさん、顔、
小さーい！（中村うさぎ『美人になりたい』BCCWJ）

(72) つめたくて甘くて、いままでに食べたどんなすいかよりお
いしい！（藤巻吏絵『美乃里の夏』BCCWJ）

(73) 鈴世と一緒にやってきていたクラスの子たちは大喜び。「か
っこいい！」「スーパーマンみたいだ」と誉めてくれた。

（田中雅美『ときめきトゥナイト』BCCWJ）

(74) 「うわ、暑い！」新幹線のドアから京都駅のホームへと一
歩出た途端に、操が悲鳴のような声をあげる。（宮原昭夫『陽
炎の巫女たち』BCCWJ）

(75) 信子は、私を不思議そうに見て、「あら！卒業式だったん
でしょ？」と言った。（萩原葉子『蕁麻の家』BCCWJ）

(76) 「おい！俺のことを忘れてんじゃないのか！」私は小声で
そう言うと、伊勢崎の背中を思いっきり突っついた。（中
津文彦『ジギスカン殺人事件』

(77) 其奴は鋭い鉤爪で枝に止ったまま、悠然と糞をした。おや！
虎造が妙な事に気づいたのは、その時だった。（野田昌宏
『銀河乞食軍団』BCCWJ）

(78) そんなのルール違反だ！作業をつづけろ、やめるな！こ
ら！」（高橋克雄『時を飛ぶUFO』BCCWJ）

(79) 帝一 それはあとでゆつくり計画を立てればいいんだ。

千恵子 まあ！（ト重政のそばへ駆けてゆく）

（三島由紀夫『三島由紀夫全集』BCCWJ）

5. おわりに

言葉の意味や用法は時代や社会の変化に従って変わることが考えられる。中国語でも語の転成の例が見られるので、中国語話者の日本語学習者には馴染みない言語現象ではないはずである。例えば、例(80)の「寶貝」は名詞から動詞に、例(81)の「温暖」は形容詞から動詞に、例(82)の「寧靜」は形容詞から名詞に転成したものである。

(80) 眾多皇服之中，馬玉琪最寶貝的是一件皇太后穿的大禮服。

(SI)

(81) 該會秉著以文化灌溉人群，用愛心温暖社會之理念，繼續回饋社會。(SI)

(82) 他顯然很珍惜這從來也不敢企望的寧靜(後略)(SI)

但し、水谷(2011)で述べられているように、普通の辞書では紙幅の関係で言葉の変化にいちいちフォローできないのが実情である。管見では形容詞の感動詞化についての記述は普通の辞書では触れられていないし、日本語教室で使われる教科書でも取り上げられていないようである。確かに、「い」で言い切る日本語の形容詞は主に物事の性質や状態を表し、連体修飾語か述語として用いられたり、連用形で副詞として用いられたりする。但し、本稿で述べてきたように、日本語の形容詞は「形容詞基本形+！」形式か「感動詞+形容詞基本形+！」形式で感動詞に転成して用いられることが多く見られる。たとえ日本の国語辞典で記述されていなくても、感動詞への転成は既存の事実であるので、日本語学研究の立場からも日本語教育の立場からも看過してはならないことである。

考察資料

飛田良文・浅田秀子（1991）『現代形容詞用法辞典』東京堂出版

（現形）

新潮社（1995）『新潮文庫の100冊 CD-ROM版』新潮社（100）

新潮社（2000）『新潮文庫の絶版100冊 CD-ROM版』新潮社（z 100）

青空文庫<https://www.aozora.gr.jp/>（2018年8月8－15日閲覧）（A0）

国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス」中納言

<https://chunagon.ninjal.ac.jp>（BCCWJ）

用例 JP <http://yourei.jp/>（JP）

中央研究院漢語平衡語料庫 <http://asbc.iis.sinica.edu.tw/>（SI）

参考文献

飯豊毅一（1973）「形容詞・形容動詞の語幹・各活用形の用法」

鈴木一彦・林巨樹（編）『品詞別日本文法講座 4 形容詞・形容動詞』明治書院、164-206頁

小池清治・他（2007）『日本語キーワード辞典』朝倉辞典

国立国語研究所（2004）『分類語彙表-増補改訂版』国立国語研究所資料集 14、大日本図書刊

鈴木一彦（1973）「感動詞とは何か」『品詞別 日本語文法講座 6 接続詞・感動詞』明治書院、137-175 頁

笹井香（2005）「現代語の感動喚体句の構造と形式」『日本文芸研究』57-2、関西学院大学日本文学会、1-21 頁

飛田良文・浅田秀子（1991）『現代形容詞用法辞典』東京堂出版

（現形）

松村明編（1971）『日本文法大辞典』明治書院

水谷静夫（2011）『曲り角の日本語』岩波書店

森田良行（1973）「感動詞の変遷」『品詞別 日本語文法講座 6 接続詞・感動詞』明治書院、177-208 頁

山田忠雄・他（2017）『新明解国語辞典』七版、三省堂

山田孝雄（1936）『日本文法學概論』寶文館

頼錦雀（2015）「日本語形容詞語幹+っ」についての考察』『台湾日

本語文學報』第 37 期、155-179 頁

後記：本論文は科技部研究案「從認知語言學看日語形容詞的使用差異。MOST 105-2410-H-031-050-MY3) の成果の一部である。

台灣日語教育學報第三十一期